
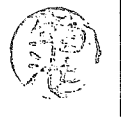

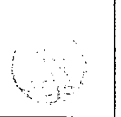
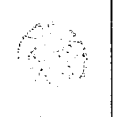

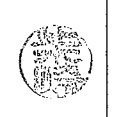



呈 欄	教育長	部 長	次 長	課 長	補 佐	係 長	館 長	館 員
								

令和4年度第1回名取市図書館協議会議事録

日時	令和4年7月1日(金) 午前10時～11時30分
場所	増田公民館 研修室1
出席委員	4名 大沼あゆみ委員 松本真奈美委員 本郷哲委員 梶川牧子委員
欠席委員	1名 齋藤勇介委員
事務局出席者	名取市教育委員会 教育長 瀧澤信雄 〃 生涯学習課 課長 佐藤徹也 名取市図書館 館長 柴崎悦子 〃 司書 加藤孔敬 〃 主幹 齋藤文絵
傍聴人	なし

会 議 概 要

1 開会

2 辞令交付

委員へ教育長より辞令交付。

3 あいさつ（瀧澤教育長）

委員の皆様には、お忙しい中また猛暑の中お集まりいただき感謝申し上げます。

3月16日の福島県沖地において、名取市では大きな人的被害はなかったものの、建物などに被害があった。図書館では、壁のひび割れや3階防災垂れ壁のガラス破損などのほか、かなりの数の本が本棚から落ちた。3階で9割、2階で5割の本が落下し、私も見に来たが足の踏み場もない状態だった。臨時休館することとなったが、図書館職員やボランティアの方々の努力で、1週間で再開にこぎつけた。増田公民館ホールや文化会館中ホールなどは、現在も修繕が終わっていない状況である。

新型コロナウイルス感染症は収束に向かっているわけではないが、行動制限は緩やかになってきて

いる。図書館でも感染予防に細心の注意を払いながら、いろいろなイベント行っている。

来館者については、ほぼコロナ前に近い数に戻ってきている。この図書館は、柴崎館長を中心とした職員、そして図書館友の会などとのボランティアの皆さんで、ますます活動を充実させている。新図書館オープン記念事業で阿刀田高先生に講演をいただいた中で、阿刀田先生は、図書館にとって大切なものは3つ「建物・本・人」であり、特に1番大切なのは「人」であるとお話されていた。ここで働く人、ボランティア、図書館に集う利用者の方々、そして様々な分野で活躍しておられる委員の皆様、みんなでこれから図書館の活動を盛り上げていきたいと考えている。

昨年度、名取市子ども読書活動推進計画を策定し、子どもたちの読書離れ活字離れが問題となる中、もっとも本を好きになってもらうような取り組みを推進している。この取り組みは、図書館のほか、学校幼児教育、家庭、地域でも取り組んでもらうことが大切である。

この後、担当から令和3年度事業報告と令和4年度事業計画について説明があるが、忌憚のないご意見をいただきたい。

4 委員紹介・職員紹介

5 会議成立の確認

名取市図書館条例第11条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しているため、会議は成立していること報告。併せて、名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となることを報告。

6 会長・副会長の互選

会長・副会長について、条例第10条第1項の規定により委員の互選。

会長 松本委員、副会長 大沼委員 に決定。

7 会長あいさつ(松本会長)

私以外の委員は新任ということで会長を務めさせていただくことになった。誠心誠意務めさせていただくので、任期中よろしく願います。

8 議事

条例第11条第1項の規定により、松本会長が議長となり議事を進行。

(1) 令和3年度事業報告について …資料に基づき加藤司書説明

松本議長

事務局の説明から、コロナによる様々な制約を受けながらも工夫し、利用者数が増加していること、たくさんの方の活動を推進してきたことがわかった。

では、委員に意見・質疑を求める。

大沼委員

行事の企画が素晴らしく、多くの活動を行っていると感じた。今後新たな変化や改革などの予定があれば聞かせていただきたい。

柴崎館長

行事については、ほとんどが図書館友の会などと一緒にしているものである。今後などとの活動がより活発化することで、ますますよい図書館になっていこうと思っている。

本郷委員

令和元年度と比較した来館者数について教えて欲しい。高専では本のリクエストの取り扱いに悩んでいるところだが、どのように選定しているかを教えて欲しい

柴崎館長

令和元年度来館者数は282,496人、1日当たり1,016人であった。令和2年度は1日当たり745人、令和3年度は1日当たり794人、現在はもう少し多くなっているかと思うが、まだまだ令和元年度の水準には届いてない。令和元年度は、図書館が開館したばかりで、物珍しくて来館する方がたくさんいた。

本のリクエストについては、できるだけ購入で対応をしている。本の内容により名取市図書館で蔵書とするのにふさわしくないとされるものは、お断りすることもある。他館との相互貸借で対応もしている。名取市図書館の本の収集方針はホームページに掲載しているので、参考にしていきたい。

梶川委員

事業実施状況を聞き、活動が多岐にわたっていることに感心した。私は友の会などで活動をしている。などのを、自立し活躍できるような会にしていきたい。

おはなし会について、以前は小学校低学年あたりまで参加者がいたが、最近は小学生の参加者が少ないと感じている。もっともっと人が集まるような呼びかけがないかと、会員同士で相談をしている。図書館でも、もっとたくさんの人に集まってもらえるような方策を考えて欲しい。

柴崎館長

土曜日のお話し会は、幼児かそれ以上が対象である。全国的に、おはなし会の参加者の低年齢化が進んでいる。赤ちゃんを連れた熱心な母親の参加が増えているのも特徴である。小学生近くなるとなかなか参加しなくなるのは、当館だけでなく全国的な流れである。館内に子どもがいないわけではないので、館内放送など何か良い周知方法がないか、一緒に知恵を出し合っていきたい。

(2) 令和4年度事業計画について …資料に基づき加藤司書説明

松本議長

意見・質疑を求める。

大沼委員

中学生のブックカバーコンテストがしおりコンテストとなったとのことだが、変更した理由は何か。

加藤司書

当初、ブックカバーコンテストを周知した際、そもそもブックカバーが何か想像できない中学生が多いとのことであった。ブックカバーをかけた本のサンプルを作って周知もしたが、それでもイメージが湧かない

いようであった。しおりであれば、今の中学生でも興味を持ってもらえるのではと考え、変更した。また、本はサイズがまちまちのため、ブックカバーのサイズ対応が難しかったことも一因である。

瀧澤教育長

昔は、本や教科書にカバーをかけたりますが、現在は本のカバーを見ることは少なくなった。確かに、中学生にはイメージが湧きにくいかもしれない。

本郷委員

昨年度、明治大学の学生が図書館で実習しているようだが、図書館ではインターシップのようなものは受け入れしているのか。しおりコンテストについて、しおりの応募作品は最終的にどのようになるのか。

柴崎館長

職場体験については、要望があれば受け入れを行っている。名取市で行っているインターンシップを図書館で受け入れたこともあった。明治大学の学生は、司書の資格取得のための実習として依頼があり、名取市近郊の実家に帰省した際に実習を行った。

加藤司書

しおりコンテストは、来館者による投票で受賞作品を決定する。最優秀賞、優秀賞となった作品は、図書館で厚紙にカラーで印刷をし、しおりを作製して配布する。それぞれの学校図書館でもしおりコンテストを行っており、子どもたちはしおりになじみがある。学校図書館と協力して推進していきたい。

松本議長

他に意見・質疑はないか。

委員

なし。

(3)その他

柴崎館長

名取市図書館では、令和4年度に「名取市図書館サービス計画」を策定する計画がある。策定する理由は、図書館法などで図書館の設置および運営上の望ましい基準が定められており、公立の図書館では運営状況について事業計画の指標に基づいた達成状況を点検調査しその結果に基づいて運営を改善することと定められているためである。これまでは、計画に基づいた点検評価はしてこなかった。新しい図書館になって4年、ますますよい図書館にしていくために、計画を策定したい。

名取市図書館ではまだ利用者数が伸びているが、一般的には新しい図書館は数年たつと必ず利用状況が下がる。何もしないでいると、何年か後には名取市図書館も同じこととなるだろう。そうならないよう、よりよい図書館として続くよう、協議会の委員の皆様へ評価していただきたいと考えている。これは名取市図書館の内部計画としての位置づけで、委員の皆様のご意見を反映させた案を教育長の決裁をもって完成となる。策定する理由、計画の骨子案、策定スケジュールは資料のとおりである。

(資料に添って説明)

松本議長

よりよい図書館にするための計画とのこと、協議会委員としても協力していきたいがよいか。

委員

賛成。

柴崎館長

もう一点の資料は、今年度新しく行う行事である。図書館を使った調べる学習コンクールを開催するにあたって、今年度は初めて「チャレンジ講座」を開催する。この講座は、名取市教育委員会学校教育課の松田攝子先生に講師として来ていただき、子供たちに作品のまとめ方や本を使って調べるコツなどを教える。応募数を増やすと同時に、作品のレベルも全国レベルに上げていきたいと考えている。

親子で図書館体験は、本日から申込受付を開始したが、既に定員に達している。興味関心がこれほど高いのかとおどろいている。今年度開催してみた状況を踏まえ、来年度は人数や回数を増やすなど検討していきたい

松本議長

その他として、他になければ終了とする。

委員

なし。

9 閉会のあいさつ(大沼副会長)

事業報告、事業計画、名取市図書館サービス計画策定など、有意義な情報交換ができた。

私は、子供たちに本に親しんでほしいと考えている。学校司書は、本を読むことで相手を思いやる気持ちを育てようとさまざまな活動をしている。夏休みには親子で本を読もうという「家読」を推進する。

今後は、各分野で活躍する委員の皆様からの情報提供を、学校に帰って子どもたちの様子を見ながら活かしていきたい。

10 閉会